

賀毗(毘)礼の峰

む

かし、天からお降りになった立速男命(別名・速経和氣命)という神様が、松沢(常陸

太田市瑞竜町松崎)の大きな松の木の枝分かれしたところに住んでおられました。ところが、この神様の崇りは、非常に厳しく、里人が神様の住んでいる松の木の方に向かって、つい、立小便でもしようものなら大変——すぐにその者に神罰が下り、病気やケガに悩まされることとなり、多くの人々がいつも苦しんでおりました。

すっかり困りきった里人は、とうとう神の崇りをなくしてくれるようにと、朝廷に願い出たのです。

萬



早速、朝廷から派遣された片岡の大連は、神様の前で厳かに祭礼を行い、「このあたりには、民家が多く、何かと汚れ、また目障りでしょう。神のおいでになるような所ではありません。高い山のもっと清浄な地へお移りになっていただけませんか。」と、うやうやしく申し上げたのです。

神様は、願いを快くお聞きに入れになり、賀毗(毘)礼の峰にお移りになりました。それから、空を飛ぶ鳥さえも、この峰の上を避けて通るようになったのだそうです。

賀毗礼の峰は、現在の真弓山、高鈴山、あるいは神峰山ではないかとする説や、遺跡等から御岩山であるとする説などがあります。